週刊ウイングトラベル WING TRAVEL No.2738

毎週月曜日発行:1部330円(消費税込)1年間13,200円(消費税込)●国土交通省交通運輸記者会加盟 航空新聞社 The WING Aviation Press ●〒107-0051 東京都港区元赤坂一丁目7番8号 ヒルクレスト373 4階 ●TEL 03-3796-6646 FAX 03-3796-6645

增刊号 2023.6.19

www.jwing.net mail@jwing.net

カナダ特集 2023



カナダ観光局 **Destination Canada**

「カナダの、その奥へー 高付加価値商品拡充で5社と協力

カナダ観光局は、日本マーケットにおいて「カナダの、その奥へ一。」のキャッチフレーズのもと、旅行会社 5社(アルパインツアーサービス、エイチ・アイ・エス、グローバル ユース ビューロー、JTB、フェロートラ ベル)と協力、高付加価値商品の拡充に努めている。

カナダ観光局の半藤将代日本局長は本紙とのインタビューの中で「カナダに訪問してくれる旅行者に対し て、満足してもらえる旅行を提供していきたい」と説明。「体験価値」または「交流価値」を提供する満足度の 高い商品造成でリピーターを増やし、リピーターによる「口コミ」でより多くの優良顧客の獲得を目指す。

高付加価値商品の拡充に向けた旅行会社5社との取り組みは昨年からスタート。開始から1年目が経過。高 価格帯のツアーで定員に達するなど、好調な動きを見せている。半藤日本局長は「付加価値の高い商品でカナ ダならではの体験や交流を通じ、カナダのオープンな魅力を感じてもらいたい」と話す。



「RVC2023」会場で。左からカナダ観光局ライリー氏、半藤氏

「価格競争から価値競争へ」 協力旅行会社の拡大に意欲

新しい商品造成にはリスクもある。半 藤氏は「協力する旅行会社には複数年に わたるパートナーシップを組んで商品の 販促や商品開発、スタッフへのトレーニ ングをサポートしていく」と説明。1年 目で高付加価値商品が出揃ったところで 「価格競争から価値競争へ移行する大き な一歩と捉えている」と強調した。

今後の展開としては、「5社にとどまら ず、高付加価値商品の提供に賛同しても らうことで協力する旅行会社の数をどん どん増やしていきたい」と意欲を見せる。

旅行会社によっては、会社の方針もあ り「商品ベース、担当者ベースで高付加 価値商品に取り組んでもらっている旅行 会社もある」とのことで、例えば「カナ ダの、その奥へ―。」のロゴ使用を可能と するなど、観光局としても今後旅行会社 に協力していく内容について検討してい

高付加価値商品がカナダの良いイメージに デスティネーション・マネジメントを推進

またインタビューに同席したカナダ観 光局のモリーン・ライリー副社長は「わ れわれがターゲットとする高付加価値な 旅行者が先行して海外旅行を実施する傾 向がある」と指摘。そうした旅行者層へ 高付加価値の旅行商品を提供すること で、「今後カナダ旅行を検討する人に対し てのアピールにもつながる。また高付加 価値な商品はカナダの良いブランディン グ・イメージの向上にもつながる」と述

べ、大きな効果が期待できるとした。 一方、高付加価値商品を支える上で、 受け入れる現地の観光客に対する意識も 重要であると言える。半藤日本局長は 「カナダ観光局として、観光に対して前 向きにとらえてもらえるよう、デスティ ネーション・マネジメントに力を入れて いる」とコメント。商品造成、受け入れ 側の両面で取り組みを進める意向を見せ

「RVC2023」 ケベックシティで開催 日本から23名が参加

カナダ観光局主催のトラベルトレードショー「RVC2023」がケベック州ケベックシティで5月30日に開幕、6月2日までの期間中、日本を含む主要マーケッ トから396人のバイヤーと、カナダ側から488団体911人のセラー、メディア24人が一堂に会し、商談が行われた。日本からは23名が参加した(バイヤーと メディア、別途現地法人から3人が参加)。

RVCは今年で46回目の開催。ケベックシティで開催されるのは4回目。当初2020年に開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。 2024年は、5月14~17日に西部アルバータ州エドモントンで開催されることになっている。

カナダ政府、観光局に今後3年間で50億円超追加投入 ビジネスイベント誘致強化、日本含む主要市場で積極展開

カナダのランディ・ボワソ ノー観光大臣兼財務准相は、 RVC2023の記者会見の場で、 カナダ観光局に対して3年間 で5000万カナダドル(約52億 円)を追加投入し、ビジネス イベントの誘致を強化してい くことを明らかにした。ボワ ソノー大臣は観光局への追加 予算について「主要な国際会 議、イベントをカナダに誘致 する」と説明。日本を含む主 要マーケットへのアプローチ

を強化していく。具体的にはカナダ観光 局の本局が主導となり、コンテンツを開 発していく。日本においては、カナダ大 使館のビジネス投資部門と協力して企業 へのアプローチを図るほか、旅行会社へ のサポート、ビジネス系メディアでの露 出を行っていく意向だ。

ビジネスイベントの誘致について、カ



記者会見の様子。ボワソノー観光大臣(中央左)、 ウォルデン観光局社長兼CEO(中央右)

ナダ観光局のモリーン・ライリー副社長 は本紙の取材に対し「単なるMICEにと どまらず、AIや生命科学、農業サイエン スなど、カナダの強みである産業におい て、カナダと日本の企業同士による視察 など、双方向で交流できる環境を作り、 旅行需要を喚起していきたい」と述べ、 大きな期待を示した。



ケベックシティで行われた「RVC2023」会場の様子

認証制度がスタート カナダ先住民族観光協会

族観光プログラムの認証制度「オリジ ナル・オリジナル」を立ち上げた。こ れは先住民族の伝統的な体験ができる か、質の高い体験か、国際マーケット

カナダ先住民族観光協会は、先住民 にも対応できるか、などの条件をクリ アしたプログラムを協会が認定するも の。昨年12月の段階で130件を認定、今 年末までに300件まで増やすことを目 標とする。

観光相「カナダには世界が求めるものがある」 先住民族体験などアピール、観光経済の高い影響力も強調



先住民族による開会セレモニーの様子

ボワソノー観光大臣は会見の場 で広大な大自然や先住民族の文化 を例示しながら「カナダには世界 が求めるものがある」と強調。なか でも、先住民族については「カナ ダには600以上の部族、70以上の言 語があり、現在1900もの文化体験 プログラムがある」と述べ、先住 民族の文化体験がアウトドアや音 楽、アートなどを絡めカナダ観光 の魅力のひとつとして大きな成長 を遂げている点をアピールした。

加えて「観光経済の影響力はか つてないほど大きくなっている」 と指摘。「カナダのサービス部門 における輸出額の第1位は人工知 能でも金融でもなく観光業」と述 べ、観光業の重要性を強調した。

観光収入、コロナ前の89%まで回復 来年初頭に完全回復、航空便誘致へ

記者会見には、カナダ観光局マーシャ・ ウォルデン社長兼CEOも同席し足元の 状況や今後の見通しなどについて説明し た。ウォルデン社長兼CEOは「カナダの 観光産業は観光収入ベースでパンデミッ クの影響から89%の水準まで回復してお り、2023年末から2024年初頭には完全に 回復する見込みだ」と述べた。またカナ ダ国内や欧米の旅行需要が早く回復する 一方、日本を含むアジアについては「さ まざまな理由があり回復が少し遅れてい る」とした。

需要回復に欠かせない航空便の誘致に ついては「観光局や全国の州、市のパー トナーがインセンティブを通じて、新規 路線や路線再開へ積極的に投資している」 とコメント。日本においては、ウエスト ジェットが成田-カルガリー線を就航、 6月にはエア・カナダが関西-バンクー バー線の運航を再開する。

またボワソノー大臣も「トロント、モ ントリオール、バンクーバー以外からの アクセスも欲しい と述べ、新たな誘致 へ向けて取り組む姿勢を見せた。

カナダの、

各州/準州のおすすめ体験



ケベック州

Quebec

オルレアン島での美食体験 生産者たちのルーツを知る

ケベックシティから日帰りが可能なオルレアン島。島はセントローレンス川の 中にあり、川に架かる唯一の橋で渡ることができる。のどかで牧歌的な風景が広 がり、どこか北海道にも似た雰囲気が感じられる。島には集落が6つあり、それ ぞれが魅力的だ。

この島は17世紀初頭にフランスからアメリカ大陸へ渡ってきた人たちが最初 に定住したエリアのひとつ。各集落には古くは18世紀頃から残る家々や教会が点 在し、入植時代にタイムスリップしたような気分になる。

またこの島は美食の島としても知られる。農産物の直売所を訪ね、また地元の食 材を使ったシードルやジャム、チーズ、ビネガー、チョコレート、クラフトビー ルなどを味わいながら島の恵みを堪能することができる。メープルシロップを生 産する「シュガーシャック」もあるので、シーズンにはぜひ訪れてみたい。

食の生産者たちの話を聞くと、彼らのルーツを知ることができる。入植から現 代にいたるまで、脈々と農業を受け継いできたり、橋がなかった時代に島と本土 を結ぶ船の航海士をしていた人たちがその後農地を購入して農業を始めたり、そ れぞれのストーリーを知れば、より深みのある美食体験となるだろう。



オーガニックのカシス畑。カシスを原料にお酒やビ ネガー(お酢)が造られている



18世紀に建てられた石造りの教会。北米で最も古し 時代の教会のひとつ



ヤギのチーズを試食。新鮮なのであまりクセがない。 地元のリンゴを使ったシードルを醸造。甘みの強い ヤギのミルクを使ったソフトクリームも味わえる



アイスシードルやスパークリングなどを飲み比べ

オンタリオ州

Ontario

アガワ渓谷鉄道で大自然を体験 この地を描いた画家たちの絵画を鑑賞

オンタリオ州は、トロントやナイアガラの滝、首都のオタワだけでなく、その奥 には息をのむような美しい森林や湖の風景が広がり、ハイキングや川下り、キャ ンピングなど、アウトドアにも最適なデスティネーションだ。

息をのむような北オンタリオの絶景を体験できるアガワ渓谷ツアートレイン は、北米で最も人気のある鉄道ツアーで、大自然の中を駆け抜けながら、湖や川、 カナダ楯状地、そして花崗岩が織りなす絶景を車窓から満喫できる。

特に、赤や黄色に色づいた山々の風景を堪能できる紅葉のシーズンは一番の見 どころ。高低差約152mを誇るアガワ渓谷を、谷底まで走り抜ける列車の旅は、 ローカルの人たちにも人気のアトラクションだ。列車から降りて谷底から渓谷を 眺めたり、76m上の展望台から最終氷期に作られた偉大な自然を見渡すことがで きる。

また、この辺りの風景はカナダを代表する7名の画家集団「グループ・オブ・ セブン」の風景画にもたびたび描かれたことで知られている。スー・セント・マ リーに位置する「アルゴマ美術館」では、「グループ・オブ・セブン」をはじめ、 350人以上のカナダ人アーティスト、および海外アーティストによる5000点以 上の常設展示を鑑賞できる。



アガワ渓谷鉄道で北オンタリオの雄大な自然を満喫 紅葉のシーズンは最も人気がある





「グループ・オブ・セブン」の足跡をたどる



北オンタリオには「グループ・オブ・セブン」を虜 にした素朴な風景が広がる

プリンス・エドワード島州

Prince Edward Island

「赤毛のアン」を生んだ島 島の人々の生活に触れる旅

日本では「赤毛のアン」の故郷として知られているが、この小説の作者は島出 身のモンゴメリ。1908年に出版され、今でも世界中で愛さる古典名作だ。日本 では昭和27年に村岡花子訳で出版され、戦中、英米文学に飢えていた日本人の心 を掴むベストセラーとなり、親から子へ、そのまた子へと世代を通して読まれて

「赤毛のアン」に描かれた場所を訪れ、小説を追体験する一まさに今のアニメや 映画の聖地巡礼の元祖と言える。場所だけでなく、美味しそうなスイーツ、イー スターやクリスマスのご馳走、農作業の営みや工芸品など、アンが育った当時の 伝統文化は、今でもこの島に息づいており、現代の私たちでも追体験することが

島はジャガイモの名産地であり、新鮮なシーフード、チーズやアイスクリーム など、食物の宝庫。農場を訪れたり、いちご狩りをしたり、有名シェフの宿に泊 まったり、島の人々の生活に触れることで一歩踏み込んだ豊かな旅をすることが

「この島がなければアンは生まれなかった」とモンゴメリは書いている。アンの 知名度で隠れてしまいそうな島本来の姿。物語を入り口に、ぜひその奥へ訪れて みてはいかがだろうか。



「赤毛のアン」の舞台で「緑の切妻屋根の家」のモデルとなった グリーン・ゲイブルズ・ハウス。当時の様子が今に残る



オイスターやオマールエビなど、シーフードの宝庫。 ぜひ採れたてを味わいたい



開かれる。島の食材についての話も聞くことができる 守ってきた人たちがいる



有名シェフによるデモンストレーションや料理教室も 「赤毛のアン」の頃から変わらない風景。この風景を

ユーコン準州

Yukon

白夜のアウトドア、紅葉とオーロラ 大自然に囲まれたロッジでの滞在

北緯60度以北に位置し、貴重な大自然に出会うことができるユーコン準州。カ ナダ最高峰の山であるマウントローガン (5959m) や、極地以外では世界最大級 の氷原を抱くクルアニ国立公園(世界遺産)は人気の観光地のひとつ。

夏(6~7月頃)は、夜間でも太陽の日差しが降り注ぐ「白夜」の中で、時を忘れ て、ハイキングやカヌーをはじめとしたアウトドア体験が可能となる。

夜の暗さが戻ってくる秋(8月中旬ごろ)からは、夜空にオーロラが現れ、地上 では紅葉(黄葉)が始まることから、ユーコンの魅力的な景観を楽しむことができ る。例えば、日中は紅葉ハイキング、夜は湖に浮かべたカヌーに乗ってオーロラ を眺める。極北の地域ならではのアウトドア体験として、一生の旅の思い出とな るはずだ。

また、宿泊の選択肢はホテルに限らず、大自然に囲まれたロッジを拠点にすれ ば、ユーコンの雄大な景色をより身近に楽しむことができるのでお勧めしたい。

2025年には、太陽活動極大期(ソーラーマックス)を迎え、より美しく規模の 大きなオーロラが夜空に現れると言われている。カナダのオーロラ鑑賞地のひと つであるユーコン準州で、日本では味わえない贅沢な旅を体験して頂きたい。



白夜の時期は夜中でも明るいのでアウトドアを楽し 紅葉 (黄葉) の絶景を感じながらハイキング むことができる





大自然に囲まれたロッジに滞在してユーコンの雄大 な景色を堪能 (ロッジステイは少人数、FIT向け)



夜空に広がる美しいオーロラ。日本では味わえない

ノースウエスト準州

Northwest Territories

タイディーン・ネネ国立公園で 先住民族と大地とのつながりを体感

[タイディーン・ネネ]は、先住民族デネ族の言葉で[祖先の地]の意。カナダで 最も新しい国立公園で、約2万7000km(日本の国土面積の約7%に相当)のエリア に荒れ地と亜寒帯林が広がる。世界最大級の淡水湖グレートスレイブ湖の岸辺に あり、険しい環境の北部にありながらもその景観の美しさを見ることができる。

この国立公園の特徴のひとつは、地元の複数の先住民族が国立公園の共同管理 をしていること。文化的に豊かで精神的に重要な地域として、この土地と先住民 族との継続的なつながりを保護し、継承する重要性を表している。

イエローナイフからは約190km。小型飛行機を利用し、訪問することが可能。先 住民族のガイドと一緒に夏はボート、冬はスノーモービルで公園内を訪問するこ とができる。特に夏は「釣り人の楽園」として、さまざまなスタイルで釣りが楽し めるほか、東側は北極平原が近いことから、カリブー、ハイイログマやジャコウ ウシなど、極北地に生息する野生動物を観察することもできる。ロッジでの滞在 も魅力。極北地ならではの夏の陽が長い1日を、大自然と先住民族、彼らの文化 に触れながらゆっくりと過ごすのも旅の楽しみのひとつになる。



広がる



タイディーン・ネネ国立公園。ワイルドな大自然が 手つかずの大自然の中でのオーロラ鑑賞



国立公園へは小型機飛行機でアクセス



フロンティア・ロッジなど、ロッジが点在

ブリティッシュ・コロンビア州

British Colombia

先住民族のストーリーを聞きながら クマなど、野生動物を観察

何千年もの間、この地で暮らしてきた先住民族。長い間培われてきた彼らの知 識と経験は、土地や動物、風景とのより深いつながりを促してくれる。なかでも クマは、先住民族の文化において重要な役割を果たしてきた。先住民族のガイド が森と水のストーリーを伝えながら、ハイイログマ、ツキノワグマ、スピリット・ ベアの保護区へと導いてくれる。

クマの生息地を尊重しながら、ホマルコ先住民族の伝統的な領土であるビュー ト湾でハイイログマを観察したり、デソレーション・サウンドで晩夏から秋にか けてハイイログマとサーモンの遡上を観察したり、世界でも貴重なグレート・ベ ア温帯雨林でツキノワグマや希少なスピリット・ベアを観察したり、先住民族の 興味深いストーリーに耳を傾ければ、より自然の大切さ、動物たちの大切さを肌 で感じることができるだろう。

また、海洋生物に迷惑をかけない形で先住民族がホエール・ウォッチングなど のツアーを提供。ザトウクジラやシャチ、ラッコ、ネズミイルカ、カマイルカな

先住民族が運営するラグジュアリーなロッジでの滞在もおすすめ。先住民族の 文化体験プログラムが用意されている。



ら野生動物を観察 (ハイイログマ)



先住民族のガイドによるストーリーに耳を傾けなが 生息地を尊重しながらクマの様子を観察



チルコ湖を望む絶景を楽しみながら野生の乗馬体験も について知る



先住民族が運営するロッジ(ネマイア・バレー・ロッジ)。 先住民族のガイドで先祖代々守られてきたこの土地

アルバータ州

Alberta

ユニークな宿泊施設に滞在 自然や先住民族の文化に触れる

近年、アルバータ州にはユニークな宿泊施設が相次いでオープンしている。カル ガリーの西にあるブラッグ・クリークには、川に面した森の中の豪華なグランピ ングテントが誕生。先住民族が運営するキャンプ場の中にある。エドモントンの 郊外にあるアーバン・リバー・アドベンチャーにもグランピングテントやツリー ハウスが新たに加わり、北欧スタイルのスパも体験できる。

カルガリーとバンフの間にあるカナナスキスには、ワイルドなサンダンス・バ イ・ベースキャンプがオープン。先住民族の移動用テントを模したティピーテン トやシンプルなハウス型のトラッパーテントを提供する。また南部のブレアモア では、まるでおとぎ話の世界に出てきそうなデコレーションの可愛らしいコテー ジで、子供も大人も喜ばせてくれるチャーメット・リゾートがおすすめ。

エドモントン近郊のメティス・クロッシングは、この地で暮らしてきた先住民 族メティス族の文化を体験できる複合施設。カヌーやキャンピングといったアウ トドア体験、また工芸品作りや料理体験など、先住民族の文化を体験できるプロ グラムが用意されている。宿泊施設も併設。また最近ではオーロラ観賞ができる ドームがオープンした。



豪華なグランピングテントで優雅に滞在 (ブラッグ・クリークのエレベイテッド・エスケープ)



おとぎの国から飛び出してきたようなコテージ (ブレアモアのチャーメット・リゾート)



シンプルなテントでカナダのアウトドアを体験 (カナナスキスのサンダンス・バイ・ベースキャンプ)



オーロラ鑑賞ができるドームが誕生 (エドモントン近郊のメティス・クロッシング)

「カナダの、その奥へ一。」旅行会社の取り組み

フェロートラベル

Fellow Travel



代表取締役社長

水澤 史 氏

海外スキーやハイキング、サイクリングのスポーツ旅専門ツアーを手掛けるフェロートラベル。1980年代のスキーブームにおいて、カナダのスキーツアーを企画、現在は約6割をリピーターとその紹介が占める。まだコロナ禍の2022年4月にいち早く海外旅行商品の販売を開始するなど、顧客の潜在ニーズを捉えた戦略に力を入れる。

「思いっきり純粋にスキーを楽しむ」 カナダならではの魅力を伝える

同社のスキーツアーの取り扱い方面は、ヨーロッパ、北米、オセアニア、南米、そしてカナダがメイン。水澤氏は「カナダにしかない魅力を最大限に引き出し、それをお客様にしっかり伝えることが大切」と答える。名峰と滞在を楽しむ「バカンス」スタイルのヨーロッパに対し、カナダは手つかずの大自然と「スキーを思いっきり楽しむ」のが特徴だ。

ハイキングやサイクリングも同様。例 えば、日本で海外サイクリングと言えば、 フランスやイタリアをはじめとするヨーロッパをイメージしがちだが、自由に楽 しめるカナダのサイクリングは、ロードバイクやグラベル、マウンテンを一度に楽しめるなど、「ヨーロッパの人たちに人気」とのこと。こうした魅力を伝えることで、カナダのサイクルツアーは、「分大きな伸びしろがある」という。

広大なカナダを「知り尽くす」 ツアーだからできる体験を商品化

ツアー化にあたっては、「まず自ら現地へ出向いて、実際に体験し、泊って、現地の人よりも詳しくなるくらいに知り尽くす。そこから素材を吟味してツアーに落とし込んでいく」点を重視する。

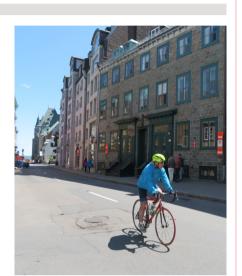
特にカナダは「国土が広大な分、未知なる観光素材が点在し、まだまだ掘り起こす価値がある」という。一方で「同じ景観が連日続き、単調にならないような配慮、アレンジも必要」と考える。

現地へ訪れる前には念入りな事前準備を行う。情報収集をする上で、トレードショー「RVC」の参加や、不確定要素がある場合は実際に出張して独自にリサーチすることも重要。「今は自分で旅行手配ができる時代。マーケットにツアーが必要とされるかどうか。ツアーでしか味わえない体験、ツアーでしか行けないエリア、デスティネーションをいかに提供していくかが大切」とのスタンスだ。

具体的には、ヘリスキーやキャットスキー、バックカントリー、野生動物たちの触れ合い、オーロラとのコンビネーションなど、カナダならではの体験、またカナダ西部にとどまらず、オンタリオ州やケベック州など、東部のスキーやサイクリングのツアーを新たに手掛けるなど、新たな顧客獲得に加え、ヨーロッパ好きなリピーターへの提案も進める。ほかにもニューファンドランドや北極圏のツアーといった、他にはないユニークなものも企画する。



パウダースノーを滑走



ケベック州でサイクリング

現地の人との交流の場を提供 価格も意識、早期販売でニーズに応える

ツアー造成においては「現地の人達を 巻き込む」点にも力を入れる。「現地の人 達と交流できる場を提供することで、旅 の深い思い出となるだけでなく、カナダ 人のアイデンティティーにも触れること ができる」とその狙いを語る。地元の人 にとっても、ツアー参加者たちとの交流 は「良い影響を与える」ようだ。

また、円安傾向や物価高でツアー料金が高騰するなか、「ハイエンドのツアーを作るだけでなく、時期やホテルを工夫するなど、リーズナブルな商品造成で行きたい人のニーズに応えていく」考え。今年の6月末から2024年の下期シーズン商品の販売を開始するなど、早期販売で「欧米マーケットよりも先に抑えること」にも取り組んでいる。

次世代へつなぐキッズキャンプ ファミリー層を意識

次世代へつなげる取り組みも進める。ファミリー層を意識したウィスラーのキッズキャンプはその一例。世界中から子供たちが集まり、共同生活をしながらスキーを楽しく学ぶ。「教育を通じて、先住民族から伝わるカナダならではの自然との向き合い方を知ることができる。英語を学ぶのはもちろん、自らコミ性や自主性も身につけられる」と、その意義を強調する。

キッズキャンプに子供の頃参加し、その後成長して再びカナダへ留学、英語を使った仕事に就く人も多くいるという。幼少期のスポーツを通じたカナダでの体験がその後の人生に大きな影響を与える。「現地関係者とのコラボレーションで教育プログラムの機会を提供したい。その土壌はたくさんある」と、さらなる拡大も視野に入れる。

現地サプライヤーと協力した全く新しい「スーパーニッチ」なマーケット開拓は、「日本市場が必要」と思わせる取り組みにもつながる。「次世代へ向け、旅が生み出す価値、可能性を継承できるようなものを作っていきたい。カナダ観光局、各州/準州観光局、各サプライヤーは日本マーケットの復活に期待してくれており、少しでも結果を示し、その期待に応えたい」と意気込みを見せた。

グローバルユースビューロー

Global Youth Bureau



執行役員 企画開発部 部長

小泉 陽子 氏

ヨーロッパ方面をメインに質の高い旅行商品で、シニア層を中心とした顧客から高い評価を得ているグローバルユースビューロー。同社が新たなカナダの旅行商品として発表したのが、特別企画シリーズ「カナダ野生動物王国」だ。100万円を超える高い旅行代金ながらもツアーは満席が続き、企画力を活かした商品造成が功を奏している。

これまでは定番コース中心 夏のオーロラがブレイク

同社のコロナ前までのカナダ商品は、メープル街道の紅葉やカナディアン・ロッキー、プリンス・エドワード島、オーロラといったいわゆる「定番」コースがほとんどで、「長年同じコースで内容の大きな変更もなく固定化されていた」(小泉氏)とのこと。

そのなかで、コロナ前の5~6年からコロナ後も引き続き人気を集めているのが「夏のオーロラ」。「気候の厳しい冬とは違い、夏はシニア層にとって身体の負担が少ない点がうまくマッチした」と語る。同社の中でもベストセラーのひとつとして、ブレイクしている。

野生動物への関心が高まる 「安心安全」カナダの可能性

一方、「カナダ野生動物王国」シリーズは、既に「ヒグマとアメリカシロクマ編」(2023年9月)と「究極のシロクマ体験編」(2023年11月)の2つを発表、どちらも既に満席となっている。今後は「ベルーガと北極の動物編」(2024年7月予定)、「"森の精霊"スピリットベア編」(2025年秋予定)の発表を予定している。



「カナダ野生動物王国」第2弾 「ヒグマとアメリカシロクマ編」パンフレット

同シリーズのきっかけとなったのが、顧客の「野生動物への関心の高まり」だ。ヨーロッパを中心とした商品ラインナップから徐々にエリア、マーケットを拡大していくなか、人気を集めたのが「アフリカのサファリ系商品」だったという。アフリカ、さらに南米へと商品開発が進み、カナダへと至った形だ。

また、カナダ観光局と州/準州の観光 局で構成する「チームカナダ」とのミー ティングを通じ、カナダが「大きな可能 性があるデスティネーションと感じた」 ことも大きい。特にアフターコロナにおいて、カナダが「安心安全」であるにを 評価。「アフリカでは医療態勢に不安が あるなか、カナダは安心でこの定番ではない旅行としてカナダでで 生動物に着目した」という。カナダでで アフリカや南米にはいない野生動物であるい。 イモリジナリティの高さ」も商品化の後押しとなった。

価格の高さをきちんと説明 「現場に行く」大切さ

「カナダ野生動物王国」は、旅行代金が100万円を超える高額商品となる。小泉氏は「なぜ旅行代金が高いのかきちんと説明する必要があった」と説明する。



パンフレットの中のQ&Aコーナー。現地視察の様子やなぜ旅行代金が高いかを紹介している

例えばヨーロッパの旅行商品では、ホテルなどハード面のグレードが旅行代金に反映されるが、カナダの場合は「旅行代金が高くてもホテルが普通の設備だったりする。行きにくさや希少価値で高くなる」という。

そのため「お客様がどこまで許容できるか、価格と価値のバランスが重要」と 指摘する。そのなかで、これまでの添乗 経験を活かし、「お客様がツアーに何を求めているか、価値観を共有できた」こと が大きな強みとなった。

商品化にあたっては、小泉氏自ら現地 へ出向いて体験。「視察前からパンフレットのシミュレーションを重ね、実際に現 場へ行くことが大切」と語る。

ツアーのパンフレットでは、「お客様から問い合わせがある前に、パンフレットに盛り込んだ」とあるように、なぜ旅行代金が高いのか、希少価値が高い点を、紙面を大きく割いてQ&A形式で説明。また、旅行説明会においては、現地視察に同行した動物写真家を招いた報告会を実施。「反応は上々だった」とのことで、結果的に満席となった。

現地へ訪れるという意味では、トレードショー「RVC」の参加も重要と捉える。「日本にいては情報収集に限りがある。RVCのようなイベントに自ら出向き、自分で素材を見つける。違う視点で見ることで、大きな商品造成のきっかけにつながる」と説明する。

夏オーロラ強化へ 違った視点で商品を紹介、欧米を参考」

今後は夏のオーロラ商品にも力を入れる。オーロラの「当たり年」のサイクルをこれから迎えるにあたり、「欧米人旅行客目線で人気があるプロダクトなどで、日本マーケットにはまだ知られていないユニークな素材を取り入れたい」と意欲を示す。「カナダ野生動物王国」も今後シリーズ化していく。

さらに既存の商品においても、「タイトルを変えるなど、切り口を変えることで面白いものにしていきたい」考え。例えば、プリンス・エドワード島は、日本では「赤毛のアン」の島として人気だが、「欧米マーケットでは、赤毛のアンよりも美食の島として人気が高い」ことから違った切り口で見せ方を工夫していく。欧米マーケットの動向を見ながら、小泉氏は「新たなカナダの見せ方を考えていきたい」と抱負を語った。

オンタリオ州 Ontario

上質な食とワインをテー オンタリオのディープな魅力を追求

カナダ最大の都市トロントを中心に、首都のオタワやナイアガラの滝など、観光素材 には事欠かないオンタリオ州。五大湖など豊かな湖川に恵まれた大地には、農場や 果樹園、ワイナリーなどが広がっており、豊富な食材の宝庫ともなっている。近年は そんな地元の素材を活かした質のよいレストランが急増し、食をテーマにした旅ルー トやツアーも登場。カリナリーツーリズムはオンタリオをより深く知ることができる 新たなスタイルとなっている。



リビエラ

リドー運河と国会議事堂



首都ならではの国際性とフランス文化の影響を反映したハイレベルな味

カナダの首都として各国の要人をはじめ、世界のビジネスマンを迎え入れてきた オタワ。隣接するケベック州のフランス文化の影響も受け、世界レベルのレストラン が集まっていることで定評がある。最近では、地産地消や環境への配慮も徹底し、 さらにクォリティの高い料理を出す店が増えている。

ソシアル・レストラン+ラウンジ

バイワード・マーケットで楽しむ独創的な多文化メニュー

観光スポットでもあるバイワード・マーケット内 の人気店。地元の食材をフューチャーした自由で先 進的なマルチカルチャー料理を次々と提案。ステー キや鴨のコンフィなど定番料理もオリジナルで、新 鮮な味わいで楽しめる。多彩なワインセレクション をはじめ、クラフトカクテルや地ビールなど、ドリ ンクメニューも充実している。





Social Restaurant + Lounge

地元のビジネスマンに評判のクリエイティブな味 スパーク通り、元銀行のビルを改装した店内は、 天井が高く洗練された雰囲気ながら、オープンキッ チンやバーカウンターなどのライブ感が全体に伝わ り、カナダらしい気さくさと活気に満ちている。日々 仕入れた素材を丁寧に仕上げる創作メニューで、パ スタや羊肉の料理は大人気。オイスターやロブス ターなど新鮮なシーフードも楽しめる。





1エルギン

コンサートや観劇後に楽しみたい現代カナダ料理

ナショナル・アーツ・センター(カナダ国立劇場)内 にあるコンテンポラリー料理のレストランで、国産の旬 の食材を使い、"カナダ味覚のショーケース"の役割を自 認。メープル味のチキン、サーモンステーキなどが美味 だ。ナショナル・アーツ・センターでは、プラスティッ ク製に代わり堆肥化可能な食器も使用。これを堆肥に変 えてハーブガーデンに利用するなど、様々な環境プログ ラムも実施。 1 Elgin



メトロポリタン・ブラッスリー・レストラン

パリの華やかさと美味しさをそのままオタワで



バイワード・マーケットのおしゃれなエリアにあるフ ランス料理店。1920年代のパリのブラッスリーをイメー ジした店内では、ブランチから深夜メニューまで提供。 スープやサラダ、前菜からメインまで品数豊富で、毎週 金曜の午後4時~7時に開かれる「ロウバー」ではエビや オイスター、カニなど新鮮なシーフードが満喫できる。

Metropolitan Brasserie Restaurant

オタワの人気店をハシゴするグルメツアー「セ・ボン・オタワ」

料理教室も主催する会社が行うガイド付きのフードツ アー。自転車で回るタイプやスイーツをテーマにしたタイプ など各種あり、中でもおすすめは、ガイドと共に人気店をハシ ゴしながら前菜、メイン、デザートなど、3~4種類のコー スを味わえるツアー。それぞれの店のストーリーも知ること ができ、タイミングによってはシェフとの対話も可能。





C'est Bon Ottawa バイワード・マーケット内のツアーもあり

ナイアガラ周辺 Niagara Area

人気観光地ナイアガラの滝



ワイナリー併設レストランで、こだわりの美酒と料理のペアリングを楽しむ

ナイアガラの滝を有するこの地域では、30~40年前からワイン造りが始まった。ブド ウ栽培に適した風土の中で生産される上質のワインは世界でも注目され、今では100 カ所近くのワイナリーが林立するほどに成長。丁寧な手作りにこだわる小規模施設 がほとんどで、大量生産しない分、国外に出回りづらい希少ワインとなっている。 この地でのワイナリー巡りはすでに人気だが、中にはレストランを併設していると ころもある。料理とワインのペアリングを楽しみながら、好みの1本を探してみては いかがだろう。

ペラー・エステーツ

ブドウ畑を眺めながら、リゾート気分でランチ&ディナーを

数々のワインコンクールで多数の受賞歴をもつワイ ナリー。レストランでは、カナダ食材を多用した独創 的な料理が楽しめ、それぞれの料理に合う自社ワイン もアレンジしてくれる。コロニアル調の優雅な内装の 店内でブドウ畑の景観を眺めながらのランチは格別。 テラスやワイン貯蔵庫での食事、-10℃の"氷のラウン ジ"でのアイスワイン試飲などもアレンジ可能。



<u>Peller Estates</u>

© Andrew Peller Ltd and Nataschia Wielink

Trius

トリウス

カナディアンワインの歴史を作ってきた老舗ワイナリー

1979年にヒルブランド・ワイナリーとして創業。1991年に 世界のベスト・レッド・ワインに選ばれた「トリウスレッド」 など大変評価の高いワインを生産。レストランでは地元生産 者から仕入れた食材を活かし、ワインと合う料理を提供。グ ループ向けには施設内の様々な場所を利用したプライベート ダイニングなど、トリウスならではのプランを提供している。

ヴィンランド・エステーツ・ワイナリー

美しい風景の中、ワインと食事が堪能できる滞在型ワイナリー

なだらかな斜面に広がるブドウ畑の中に建つ絵画の ように美しい滞在型ワイナリー。カベルネ・フラン、 リースリング、シャルドネ等のワインが高評価を得て いる。19世紀の農家を改装したレストランでは、地元 食材を使用したハイレベルな「ナイアガラ・キュイジー ヌ」を味わえる。滞在も可能でワイナリーツアーやワ インスティングには事前予約がおすすめ。





ペニンシュラ・リッジ・エステーツ・ワイナリー

丘の上に広がるブドウ畑からオンタリオ湖を一望



最新式の機器を導入し、赤・白とも様々なタイプの ワインを丁寧に醸造するワイナリー。17万㎡超の畑に 囲まれ、リラックスした雰囲気に満ちた高台の敷地か らはオンタリオ湖も望むことができる。レストランに はビクトリアンスタイルの邸宅を利用。アットホーム な雰囲気の中、シェフ自慢のパスタやステーキをはじ めクリエイティブな料理が供される。

Peninsula Ridge Estates Winery

シャトー・デ・シャルム

日本からのグループツアーにも人気の名門ワイナリー

1978年にフランスから移住したワインメーカーが 創業。広大なブドウ畑の中に堂々と建つワイナリーは、 まさにシャトーの風格。自社栽培のブドウだけを使っ たワイン造りを行っている。施設内のツアーの後、ブ ドウ畑にセットしたあずまやでの軽食とワインを楽し める「ヴィンヤード・カバーナ」など、グルメプログ ラムも各種用意。 Château des Charmes



カナダ初「ミシュランガイド」 発行のトロントも要チェック!

昨年、カナダ初となるミシュランガイドがリリースされたトロン トの食事情にも注目したい。二つ星1軒、一つ星12軒と17軒のビブ グルマンを含む、計74軒の中には日本料理をベースにした星付きレ ストランが目立つが、コンテンポラリー料理の "ALO" や "Enigma Yorkville"、イタリアンの"Don Alfonso1890 Toronto"など、「ダ イバーシティー=トロント」を舌でも体感できる店が揃っている。

オンタリオ湖畔に広がるトロントの街

Michelin Gude (トロント・レストランセレクション)

ウエストジェット WESTJET

東京一カルガリー線就航 カナダへの新しいアクセス

ウエストジェットは、5月1日(東京発)より、東京(成田) — カルガリー線の運航を開始した。週3便(東京発:月・木・土/カルガリー発:水・金・日)の運航で、カナダへの新しいアクセスを提供する。カナダ国内の充実したネットワークはもちろん、近年は国際線のネットワークを拡大、東京 — カルガリー線は初のアジア路線となる。手ごろな価格で質の高いサービスを提供するウエストジェットの魅力を紹介したい。

Network

カナダ国内、アメリカへ JALコードシェア便の利用も可能



東京一カルガリー線に投入する最新鋭のボーイング787型機

ウエストジェットは、カルガリーを拠点にカナダ 国内への幅広いネットワークを提供、バンクー バーやエドモントン、オーロラ観賞で人気のイエ ローナイフなどへスムーズに乗り継ぐことができ る。またアメリカへもロサンゼルスやラスベガ ス、パームスプリングスやフェニックスなど、各 地への乗り継ぎが可能だ。

公示運賃で日本航空(JAL)運航の東京(成田) ― バンクーバー間のコードシェア便との組み合わせも可能。冬期はコードシェア便とウエストジェットのカナダ国内線を組み合わせた旅程を組むことができる。

WESTJET



ウエストジェット

1996年にアルバータ州カルガリーを拠点に運航をスタート。安全でフレンドリー、手ごろな価格で空の旅を実現することを目標に急成長を続け、現在は北米、中米、カリブ諸島、ヨーロッパへ110以上の都市に運航、フルサービスの提供に力を入れる。

Service

フルサービスを提供 最新鋭の機材に3クラス

コストを抑え、手ごろな価格で、満足度の高いフルサービスを提供するウエストジェット。 東京―カルガリー線には最新鋭のボーイング787型機「ドリームライナー」を投入、ビジネス クラス、プレミアムクラス、エコノミークラスの3クラスを提供する。

機内はカナダのオーロラをイメージした照明でリラックスした空間を演出、客室乗務員によるフレンドリーで心温かなサービスも好評。日本語を話す客室乗務員も乗務する。



快適さを追求したシートで特別なおもてなし ビジネスクラス



アピールポイント

- ●全席通路へアクセス可能な個室型フルフラット座席
- ●特注の枕と毛布を用意
- ●搭乗時にミネラルウォーターのボトル、離陸前にウェ ルカムドリンクをサービス
- ●カナダ産と世界各国の厳選されたワインと共に、カナダと日本の旬の食材を使った洋食、または和食から選べる温かい食事を2回サービス
- ●ビジネスクラス専用のスナックを用意
- ●18.5インチの大型タッチスクリーンモニターを搭載
- ●アクティブ・ノイズキャンセリングヘッドフォンで楽 しめる豊富なコンテンツのエンターテイメント
- ●USBポート、電源ポート、機内Wi-Fi(有料)
- ●カナダのトップブランドの スキンケア製品の入ったア メニティケースを用意
- メニティケースを用息受託手荷物2個×23kgまで
- ●優先チェックイン、搭乗、 受託手荷物の受け渡し



アメニティケース

ワンランク上のサービス プレミアムクラス





アピールポイント

- ●独立した専用キャビン、横2-3-2席の配列
- ●シートピッチ98cm、リクライニング25cmのゆとりあるシート
- ●柔らかな毛布と枕を用意
- ●搭乗時にミネラルウォーターのボトル、離陸前にウェ ルカムドリンクをサービス
- ●洋食、または和食から選べる温かい食事を2回サービス
- ●13.3インチのタッチパネル個人用モニターを搭載
- ●パッシブ・ノイズキャンセリングヘッドフォンで楽しめる豊富なコンテンツのエンターテイメント
- ●USBポート、電源ポート、機内Wi-Fi(有料)
- 「Rocky Mountain Soap Company」のアメニティ キットを用意
- ●受託手荷物2個×23kgまで 無料
- ●優先チェックイン、搭乗、 受託手荷物の受け渡し



アメニティキット

快適な座席と充実のサービス エコノミークラス





アピールポイント

- ●横3-3-3席の配列
- ●シートはシートピッチ79cm、リクライニング10~ 15cm、座席幅43cmで快適さを追求
- ●全席に柔らかな毛布と枕を用意
- ●洋食または和食から選べる温かい食事を2回サービス、スナック、飲み物も用意
- ●豊富なコンテンツのエンターテイメントが楽しめる 11.6インチのタッチパネル個人 用モニターを搭載
- ●USBポート、電源ポート、機内 Wi-Fi(有料)
- ●受託手荷物最大1個まで無料





カルガリー空港では「Elevation Lounge」の利用が可能(プレミアムクラス、エコノミークラスは有料で利用可)。成田空港ではユナイテッド航空の「United Club」が利用できる。



カナダの新しい翼、ウエストジェット

東京(成田)ーカルガリー線、週3便で運航中

東京(成田)-カルガリー線運航スケジュール(7月3日~10月28日まで)

便名	出発地	出発時間	到着地	到着時間	運航日
WS81	東京(成田)	18:30	カルガリー	12:45	月・木・土
WS80	カルガリー	15:00	東京(成田)	16:20 +1	水・金
		15:10		16:30 +1	日

*運航スケジュールは予告なく変更になる場合がございます。

成田国際空港:ターミナル1北ウイング

